

# AIが介護にもたらすもの ~その人らしさを支える基盤としての活用~



株式会社三菱総合研究所 執行役員人事部長  
吉池 由美子

## 1. 生成AIの急速な広がり

近年、生成AIの急速な普及により、社会や生活が大きく変わり始めている。企業では、情報収集や事務処理、資料作成といった業務にAIが組み込まれ、社員は人との対話や判断、創造といった本質的な役割により多くの時間を割くように変化しはじめた。AIは人の仕事を奪う存在ではなく、人が人としての力を発揮するための補助役（パートナー）として、業務上で欠かせないツールとなるだろう。では、介護分野では今後どのようにAI活用が進むだろうか。

## 2. 人に寄り添うAI・ロボット技術

AI・ロボット技術は、すでに産業用途から生活・サービス領域へと広がっている。介護分野でも、見守りやコミュニケーション、行動支援など、人の暮らしに寄り添う技術が導入されるようになった。最近では、本人の幼少期からの経験や記憶を音声や映像で蓄積し、家族が対話形式で引き出せるライフストーリーAIも登場しており、「人生を記録し、理解する」技術はすでに実装段階に入っている。家族や介護職員がその人をより理解するのを助け、関係性やコミュニケーションの質の向上が期待されている。

## 3. AIが介護にもたらす新たなかたち

三菱総合研究所では、要介護になる前の元気な時期から家庭でAI・ロボットを活用し、ライフステージに応じて支援を進化させる将来像を提言している<sup>※1</sup>。家庭で日常的に蓄積された生活リズム、習慣、好みといった本人データを、要介護となった後や介護施設へと連続的に引き継ぐことで、一人ひとりの状況にきめ細かく合わせる介護を実現する構想である。ここではAIやロボットは作業を代替する存在だけではなく、その人らしさを支える存在として位置づけている。

## 4. 活用上の課題と可能性

このようなAIやロボットの実装には、本人の同意に基づくデータ管理、プライバシーや倫理への配慮、家庭・在宅・施設をまたぐ制度設計、そして現場で無理なく使いこなせる工夫が不可欠である。これらの課題が解決できれば、介護はさらに各個人の人生や生活に根差した個別支援へと進化できる。介護職員の役割もさらに進化し、「その人の人生を理解し、本人の選択を支える専門職」となるだろう。AIは人が人として寄り添うための翻訳者として、介護の未来を支える基盤となり得ると考えている。

※1 三菱総合研究所「未来を切り拓く AI ロボティクス」2025年10月6日